

重誓寺報

第26号 平成25年10月発行

浄土真宗 本願寺派 (西本願寺) 重誓寺
じゅうせいじ

大阪市旭区中宮2丁目4番19号
電話・FAX 06(6951)0090

二〇二〇年東京オリンピック招致が決まりました。まだまだ先のことですが、もうすぐにも始まるような盛り上がりです。スポーツに関しては、皆が自国を応援し、その活躍に一喜一憂します。それは思想的なこととは別に、自分が住んでいる国を応援するという当たり前のことではないでしょうか。これが自国で開催されるのですから、その興味は尚更のことでしょう。

今回の招致については、そのプレゼンテーションが話題になりました。今まで日本人が苦手とされてきた表現を全面的に出し、委員の目を向けることに成功したと言えます。特に滝川クリステルさんの「おもてなし」という言葉が、日本人の生真面目さや心優しさを表現していました。

でも、はたして今の日本人が本当に世界の皆様へ「おもてなし」ができるのでしょうか。何かと無関心になり、自分のことが中心となりつつある今の国民にとって、海外の方々を親身に迎えられるのかが、疑問に感じられます。

今回のプレゼンテーションで述べられた言葉は、昔からの日本人の氣質を述べられており、海外に向けてだけでなく、そのような理想の国を取り戻したいと、日本国民に向けての意気込みが含まれているのではないのでしょうか。今後、この国が世界の中で、日本人らしさを示すのは、これらが理想だけではなく、国民が一丸となって「おもてなし」する気持ちを持って行ければと思います。



法座のご案内

重誓寺では毎月、二十日

(三、五、九、十一月は二十日、二十一日)

法座が勤まります。

勤行約三十分、法話約一時間

浄土真宗にとって一番大切なことが、
仏法を聞くこと、いわゆる聴聞であります。
皆様お誘い合わせの上、お参り下さい。

常例法座

十月二十日(日)

講師 宏林晃信 師

親鸞聖人報恩講

十一月二十日(水)、二十一日(木)

講師 不死川^{しなずがわ}浄 師

常例法座

十二月二十日(金)

講師 中西昌弘 師

いずれも 昼二時、夜七時

本願寺聖人伝絵

浄土真宗の宗祖親鸞聖人の生涯を絵詞^{えごしほ}で、親鸞の曾孫である本願寺第三代の覚如^{かくよ}上人による著作です。特に詩の部分は『御伝鈔』、絵を『御絵伝』と呼びます。

重誓寺の四幅の御絵伝は、寛政十一(一七九九)年十月二十八日、本願寺十九代ご門主、本如^{ほんによ}上人ごより下附されたものです。

十一月の親鸞聖人報恩講では、御絵伝を余間に掛け、御伝鈔を拝読いたします。

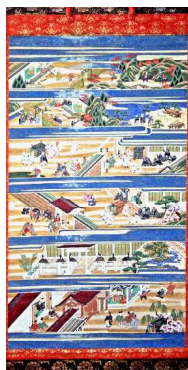
是非お参りいただき、ご覧下さい。



第一幅



第二幅



第三幅



第四幅

親鸞聖人のご生涯

⑦ 帰洛・善鸞義絶

親鸞聖人が京都に帰られてからは家庭的には恵まれていかなかったと言えます。

先ず聖人が八十二歳頃に妻の恵信尼さまが、生まれ故郷の事情により、越後に帰らねばならなくなりました。聖人の身のまわりの世話を末娘の覚信尼さまに頼んで、敬慕してやまない夫と、はるかへだてて暮らさねばならなかった恵信尼さまの、つらく悲しい心情は察するにあまりあるものがあります。そしてそのまま夫の臨終にも死後にも京都に帰られることは、ついにありませんでした。

次に悲しい出来事は聖人が八十四才の頃、わが長男の善鸞を義絶されねばならなかったこととあります。善鸞は最初は聖人の代行として関東に残してこられた門弟たちを教化するために東国に送られました。しかし、次第に善鸞の言うことが変わってきました。それは関東各地の門徒たちが、

聖人から教えられたとして言い伝えている法義は、みな誤っていて、自分（善鸞）が聖人から直接に聞いたことだけが正しいと主張しはじめます。善鸞は幕府や有力者に働きかけて活躍をはじめた事により、念佛者の集団は大混乱を生ずるばかりでした。その結果、聖人は“親について無実のことを言いふらし、念佛者を動揺させ、幕府や六波羅に訴えた罪は許せない”として、父と子の縁を切ることを善鸞に告げるとともに、主だった門弟にもこの事を通告せられました。

正しい法をまもりぬくことと、断ちがたい親子の情との間に立つて苦悶しながら、義絶までせねばならなかった聖人は、まことに断腸の思いであったことでしょう。



本願寺津村別院 親鸞聖人750回大遠忌法要・行事一覧

11月	早朝 (~8:00)	午前 (8:00~12:00)	午後 (12:00~16:00)	夜間 (18:00~)
11日 (月)	7:00 晨朝勤行 (通常)		14:00 連夜法要 15:00 記念法話	18:00 記念公開講座
12日 (火)	7:00 晨朝勤行 7:30 記念法話	10:00 日中法要 11:00 記念法話	14:00 連夜法要 15:00 記念法話	
13日 (水)	7:00 晨朝勤行 7:30 記念法話	10:00 日中法要 11:00 記念法話	14:00 連夜法要 15:00 記念法話	
14日 (木)	7:00 晨朝勤行 7:30 記念法話	団体参拝設定 9:30 記念行事 10:30 つどい(法話) 11:00 日中法要 (御門主様御親修) 御門主様御親教	団体参拝設定 13:30 つどい(法話) 14:00 連夜法要 (御門主様御親修) (御裏方様御参拝) 御門主様御親教 15:00 記念行事	
15日 (金)	7:00 晨朝勤行 7:30 記念法話	団体参拝設定 9:30 つどい(法話) 10:00 日中法要 (新門様御導師) 新門様御法話 11:00 記念行事	団体参拝設定 13:30 つどい(法話) 14:00 連夜法要 (新門様御導師) 御俗姓拝読 新門様御法話 15:30 記念行事	18:00 初夜勤行 御伝鈔拝読 20:00~ 通夜布教
16日 (土)	~4:00 通夜布教 7:00 晨朝勤行 7:30 記念法話	9:00 御笠舞パレード・屋敷 10:30 つどい(法話) 11:00 縁儀・日中法要 (新門様御導師) 新門様御法話	13:30~16:00 親鸞さま ありがとう ~子どものつどい~	

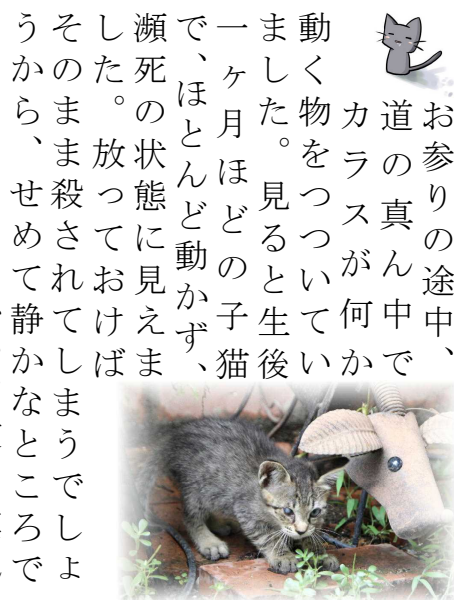
※団体参拝設定日(14・15日)につきましては、一般参拝者席に限りがありますので
予めご了承ください。

本願寺津村別院

親鸞聖人750回大遠忌法要

2013(平成25)年
11月11日 連夜~16日 日中

西本願寺では昨年一月に「親鸞聖人七五〇回大遠忌法要」のご正當を迎えました。津村別院(北御堂)では、延修法要(本山の法要を過ぎたからの勤め)として本年十一月十一日から十六日にお勤めされます。どうぞ、お誘い合わせご参詣下さい。



しをす すきのでにい片ますし口 帰りと思
た感る生。走可は元ま目す。がず。に無り
じ動き り愛子氣しは。つ、入理。ました
さ物て 回さ猫にた失 食でれ矢
せのゆ つをななが。べはる理
ら生こ て振らり、て。てあとに
れ命う いりで、次し。くり、餌
ま力と ままは今第ま れま少を

重誓寺 HP <http://juseiji.net> E-mail info@juseiji.net

寺報はバックナンバーを含め、ホームページでご覧いただけます。

ご意見、ご質問等がありましたら、メールでもお寄せ下さい。